琉球大学学術リポジトリ

幼稚園教育要領改訂が保育者養成校における領域「人間関係」の学修内容に及ぼす影響の検討
―領域「人間関係」の教科書分析を手がかりに―

メタデータ	言語: ja
	出版者: 琉球大学教職センター
	公開日: 2022-06-08
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 宮城, 利佳子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002018014

幼稚園教育要領改訂が保育者養成校における領域「人間関係」の学修内容に及ぼす影響の検討

―領域「人間関係」の教科書分析を手がかりに―

宮城 利佳子（Rikako　MIYAGI）

問題と目的

2017（平成 29）年 3 月に新しい幼稚園教育要領、保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領が同時に告示された。今回の改訂では、幼児教育・保育だけではなく、小学校以上の学習指導要領も同時に改訂され、乳児期からの発達の連続性が重視されている（無藤・汐見　2017）。

幼稚園教育要領等の中で、保育内容は、5 領域に分かれている。この中で、「人間関係」という領域は、1989（平成元年）の改訂で誕生したものであり、それ以前の「社会」の領域が含まれるものである。「社会」「人間関係」に含まれる内容は、時代背景とともに変化してきた。1964（昭和 39）年版領域「社会」に含まれていたねらいである社会認識の基礎の育成は、1989（平成元）年版には含まれなくなり、「(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。」「(2) 進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ。」というこれまでは記載のなかったねらいが取り入れられた。「（３）社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける」という記載は、領域「社会」から現在の幼稚園教育要領まで記載されている。（１）のねらいについても、1998（平成 10）年、2008（平成 20）年、2017（平成 29）年の改訂でも、漢字表記の変更以外の大きな変更はない。しかし、（２）のねらいについては、1989 年「進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ。」、1998 年「進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ。」、2008 年「身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感をもつ。」、2017 年「身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。」と変化してきている（民秋　2009，芦田 2009）。芦田（2009）は、2008 年の変更は、人間関係の希薄化という危機意識から、たんにかかわるだけではなく、より深い人との付き合い方ができるようにという変更であり、子どものセルフ・エスティーム、家庭の教育力、小学校との接続の問題など、幼児教育がかかえている課題の解決のための変更であるとしている。そうであるならば、今回の改訂では、深い人との付き合い方を、さらに一歩深め、協同へ向かう小学校以降への接続をより意識したものであると考えられる。

以前の幼稚園教育要領（平成 20 年 3 月告示）と新しい幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示）の、領域「人間関係」についての変更点の整理を行う。まず、「内容」における変更点はない。「ねらい」「内容の取扱い」についての変更点を表 1 にまとめる。

表１　領域「人間関係」内容の取扱い

平成 20 年 3 月告示	平成 29 年 3 月告示
ねらい （１）省略	（１）省略
（２）進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ。	（２）身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして、一緒に活動する楽しさを味わい、愛

	情や信頼感をもつ。
（３）省略	（３）省略
内容の取扱い （１）教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。	内容の取扱い （１）教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
（２）幼児の主体的な活動は、ほかの幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児はその中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること。	（２）一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。
（３）～（６）省略	（３）～（６）省略

※幼稚園教育要領（平成 20 年 3 月告示、平成 29 年 3 月告示）の記述をもとに、筆者がまとめ、変更部分に下線を付した。平仮名から漢字表記に変更したのみである項目は省略した。

幼稚園教育要領等における変更が、実践へと生かされるには、養成校等で用いられている教科書にどのように反映されているかが重要である。そこで、本研究では、実際に養成校で用いられている教科書では、幼稚園教育要領等改訂前後において、どのような変更があったのかについて検討する。

【研究1】幼稚園教育要領等の改訂を受けて、改訂した教科書の比較

目的：幼稚園教育要領、保育所保育士審、幼保連携認定こども園教育・保育要領の改訂を受けて改訂された領域「人間関係」の教科書と改訂前の同一の教科書を比較し、変化を検討することで、改定がどのように教科書に反映されているかを検討する。

方法：平成 29 年 3 月の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領の改訂を受けて改訂された領域「人間関係」の教科書と改訂前の領域「人間関係」の教科書の比較を行う。

分析対象は、『事例で学ぶ保育内容　＜領域＞　人間関係』無藤隆監修　岩立京子編者代表　萌文書林　2011 年 4 月 1 日　改訂第 4 刷並びに『新訂　事例で学ぶ保育内容　＜領域＞　人間関係』無藤隆監修　岩立京子編者代表　萌文書林　2018 年 5 月 7 日　新訂版第 1 刷である。本研究では、前者を旧版とし、後者を新版とする。

結果と考察：まず、改訂前後で、教科書のページ数は、旧版 202 ページから新版 222 ページへと増加した。増加したページ数は、20 ページである。

次に、記述に変更があった部分を検討する。旧版と新版の目次を比較すると、章の数については、どちらも 8 章であり、変更はない。章名については、「かかわり」（旧版）が「関わり」（新版）へと変更されており、「幼児教育の現代的課題」（旧版）が「現代の保育の課題」（新版）へと変更がなされているが、それ以外はほぼ変更はない。節の比較を行うと、第 1 章幼児教育の基本について

は、旧版５節から新版７節へと変更がなされており、ページ数も旧版21ページから新版31ページへと10ページ増加している。また、第２章から第７章については、節数の変更がなく、第８章現代の保育の課題と領域「人間関係」については、旧版３節から新版２節へと変更がなされており、ページ数は13ページから６ページへと７ページ減少している。

節数やページ数の変化から、最も変更がなされているのは、第１章である。平成29年の幼稚園教育要領改訂では、第１章総則に大幅な変更があり、第２章ねらい及び内容については、改訂が少ない。領域「人間関係」においては、内容における変更がない。第１章幼児教育の基本については、幼稚園教育要領の総則に関わる事項であるので、大幅な変更があったのに対し、第２章から第７章については、内容に関連する記述であるため、変更が少ないのではないかと考えられる。

さらに検討を行うために、章ごとに比較を行う。

まず、第１章について、節名を、以下の表２に示す。

表２　第１章　幼児教育の基本　節名比較

旧版	新版
§１　幼児教育の目的と領域	§１　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育･保育要領における幼児教育の捉え方とは
§２　環境を通しての教育	§２　これからの０～２歳児の保育
§３　幼児教育の基本	§３　幼児教育の目的と領域
§４　保育者のさまざまな役割	§４　環境を通しての教育
§５　領域「人間関係」と他領域のとの関係	§５　幼児教育の基本
	§６　保育者のさまざまな役割
	§７　領域「人間関係」と他領域との関係

新版の第１節、第２節が、新版において、記述の追加がなされた部分である。第３節から第６節の文章に変更はなく、第７節においては、２．保育内容の領域「人間関係」の特質の文章中に部分的な変更がある。新版第１節は、今回の改訂で明らかにされた、３つの資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）、資質・能力を育む３つの学びについて、記述している。また、新版第２節は、乳児期からの連続性、養護と教育の一体性について、記述している。第７節の変更は、旧版では､「人間関係」の「内容」の留意点が４つ挙げられていた箇所が削除され、新版では、平成29年告示で変更のあった箇所のみであり、10の姿との関係が記述されている。

第２章について検討する。第２章は、節の数には変更がない。以下の表３に第２章の節名、項名を示す。

表３　第２章　乳幼児期の発達と領域「人間関係」　節名、項名比較

旧版	新版
§１　親との出会いとかかわり	§１　親（保護者）との出会いと関わり
１．信頼関係の基盤―愛着の形成 ２．自分に気づく―自己と他者のかかわり	１．信頼関係の基盤―愛着関係の形成 ２．自分に気づく―自己と他者の関わり
§２　保育者との出会いとかかわり １．乳児期の保育者とのかかわり ２．幼児期の保育者とのかかわり	§２　乳幼児と保育者の出会いと関わり １．乳児期、１・２歳児期の保育者との関わり ２．幼児期の保育者との関わり

§３　友だちとの出会いとかかわり １．友だち―なかま ２．集　団―クラス	§３　友達との出会いと関わり １．乳児期、１・２歳児期における友達との出会いと関わり ２．幼児期における友達との出会いと関わり
§４　友だちとぶつかる １．思いの違いに気づく ２．イメージを合わせる―自己主張と自己抑制 ３．ルールや決まりをつくる	§４　友達とのぶつかり １．乳児期、１・２歳児期における友達とのぶつかり ２．幼児期における友達とのぶつかり ３．ルールやきまりをつくる

第２章は、第１節、第２節に記述の変更はない。第３節で、旧版第１項、第２項の記述が新版第２項へとまとめられ、新版第１項が追加されている。乳児期、１・２歳児期の友達との関わりであり、写真や事例も追加されている。第４節も第３節と同様に、旧版第１項、第２項の記述が新版第２項へとまとめられ、新版第１項が追加されている。事例の追加はないが、写真の追加と、３歳未満児のトラブルへの要因と配慮について記述されている。

第３章について検討する。第３章は、節の数には変更はない。以下の表４に第３章の節名を示す。

表４　第３章　子どもと保育者の関わり　節名比較

旧版	新版
§１　子どもとの信頼関係を築く	§１　子どもとの信頼関係を築く
§２　子ども同士の関係をつなぐ	§２　子どもの自己主張を支える
§３　自己主張を支える	§３　子ども同士の関係をつなぐ
§４　自立へ向かって	§４　自立へ向かって
§５　心の安全基地として子どもの人間関係を支える	§５　心の安全基地として子ども同士の人間関係を支える

第３章は、第１節第１項において、乳児クラスや１・２歳児クラスで、保育者が子どもと関わる機会について追記され、第２項において、０歳児クラスの事例、３項において１歳児クラスの事例が追加されている。新版第２節（旧版第３節）においても、１項において、２歳頃の自己主張についての記述が増え、写真と１歳児クラスの事例が追加されている。

第４章について検討する。第４章は、節の数には変更はない。以下の表５に第４章の節名を示す。

表５　第４章　遊びのなかの人との関わり　節名比較

旧版	新版
§１　遊びと子どもの育ち	§１　遊びと子どもの育ち
§２　遊びの発達と人間関係	§２　遊びの発達と人間関係
§３　遊びのなかの人とのかかわり	§３　遊びの中の友達との関わり
§４　遊びのなかで共有すること	§４　遊びの中で共有すること
§５　遊びをつくる	§５　遊びをつくる

第４章は、第２節第１項乳児期の子ども（新版、旧版において項名変更なし）において、０歳児の事例が追記されている。それ以外の点における変更はない。

第５章について検討する。第５章は、節の数には変更はない。以下の表６に第５章の節名を示

す。

表６　第５章　生活を通して育つ人との関わり　節名比較

旧版	新版
§１　家庭生活を通しての親とのかかわり	§１　親（保護者）との出会いと関わり
§２　家庭生活を通してのきょうだいや祖父母とのかかわり	§２　家庭生活を通してのきょうだいや祖父母との関わり
§３　家庭生活を通しての価値やルールの学び	§３　家庭生活を通しての価値やルールの学び
§４　園生活と人とのかかわり	§４　園生活と人との関わり

第５章では、追加された事例はなく、旧版からの変更はない。
第６章について検討する。第６章は、節の数には変更はない。以下の表７に第６章の節名を示す。

表７　第６章　個と集団の育ち　節名比較

旧版	新版
§１　一人ひとりを理解する	§１　一人一人を理解する
§２　個と集団の関係	§２　個と集団の関係
§３　集団で活動する楽しさ	§３　集団で活動する楽しさ
§４　協同性を育む	§４　協同性を育む

第６章も、追加された事例はなく、旧版からの変更はない。
第７章について検討する。第７章は、節の数には変更はない。以下の表８に第７章の節名を示す。

表８　第７章　人との関わりを見る視点　節名比較

旧版	新版
§１　他者との信頼関係とかかわりの基盤	§１　人との関わりの基盤となるもの
§２　依存と自立	§２　自立心の育ち
§３　自我の発達と自己主張・自己抑制	§３　協同性の育ち
§４　いざこざから生み出されるもの	§４　道徳性・規範意識の育ち
§５　集団のなかでの役割と責任・道徳性のめばえ	§５　社会生活との関わり

第７章はすべての節名が変更され、記述、写真、事例のすべてが変更されている。ページ数も旧版 18 ページから新版 26 ページへと増加している。第１節について、旧版３ページから新版５ページに増加しており、旧版では、エリクソン（Erikson, E, H）の説明に１ページ半を使用しているが、新版ではエリクソンについての記述はなく、ボウルビィ（Bowlby）の説明に１ページを使用している。そして、旧版では、事例はないが、新版では生後５か月児の事例が取り上げられている。また、新版では、旧版では言及のない子どもが互いに影響を与え合い育ち合うことについての記述がある。
第２節について、旧版４ページから新版６ページへと増加している。事例数は、旧版は４事例であるが、新版では３事例へと減少している。旧版の項名は、１．保護者と子どもの関係から保育者と子どもの関係へ　２．保育者と子どもの関係の形成へ　３．保育者と子どもの関係から

子ども同士の関係へとなっているのに対し、新版では、１．依存と自立　２．仲間と支え合う自立へ　３．粘り強く取り組む力となっている。旧版では、自立を子どもの関係性が広がっていくことが記述されているのに対し、新版では０歳から５歳まで年齢によって子どもが自立していく様子を記述している。新版では、幼稚園教育要領等の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を引用しており、グリットについても記述している。

新版第３節は、「協同性の育ち」でるが、これは、旧版第３節「自我の発達と自己主張・自己抑制」、第４節「いざこざから生み出されるもの」の内容が含まれている。ページ数は、旧版が２ページ（第３節）と３ページ（第４節）で計５ページであるのに対し、新版は６ページへと増加している。事例数も、旧版では第３節は事例がなく、第４節は２事例であるのに対し、新版では、３事例と増加している。旧版の項目は、第３節の１．自分ということ―反抗・自己主張の発達　２．遊びをめぐる交渉の発達、第４節の１．いざこざと関係の変化　２．子ども同士の関係から生み出されるものとなっているのに対し、新版では、１．自己主張と自己抑制と気持ちを調整する力　２．目標を共有し、よさを生かし合う力　３．共感性・思いやりとなっている。旧版の第３節第４節の内容が、新版の第３節では、１項にまとめられており、目標の共有や共感性に関する記述が、追加されている。

第４節については、旧版第５節の内容が、新版では第４節となっているため、旧版第５節と比較を行う。旧版では、４ページ３事例であるが、新版では３ページ１事例となっている。旧版は、１．自分の役割を果たす　２．年下の３歳児を思いやって　３．道徳性のめばえという項名で事例を中心に説明を行っている。一方、新版では、ピアジェ（Piaget）、コールバーグ（Kohlberg）、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を引用し、事例は１事例のみである。さらに、新版では、コラムの中で市民教育についても取り上げている。

第５節については、新版のみで取り上げられている内容である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「社会生活との関わり」に関して、市民教育の視点として重要であるとし、小学生、地域とのかかわりについて、事例を用いて説明している。

第８章について検討する。第８章は、節の数が３（旧版）から２（新版）へと減少している。ページ数も１３ページから６ページへと減少している。以下の表９に第８章の節名を示す。

表９　第８章　幼児教育の現代的課題と領域「人間関係」　節名

旧版	新版
§１　現代社会と人とのかかわり	§１　現代社会と人との関わり
§２　人とのかかわりを育む幼児教育の今日的課題	§２　親の生き方の変化と親子の関わり
§３　人とのかかわりを育てる保育者のさまざまな役割	

第８章では、旧版の第１節の内容が、新版の第１節、第２節の二つに分けられている。新版では、旧版では取り上げられていないICT（情報通信技術）について、一つの項として取り上げられている。そして、協同性、自己抑制、多様性、発達の連続性、保育者の役割についての記述が削除されている。

ここまで領域「人間関係」の教科書について、平成29年の幼稚園教育要領等の改正がどのような影響を与えているのかについて詳細に検討してきた。ここで、変化した部分について整理する。

まず、１点目は、３つの資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）に関連

しての記述が増加した（第１章第１節、第１章第２節、第１章第７節、第７章）。

２点目は、乳児についての記述が増加した（第１章２節、第２章３節４節、第３章１節２節４節、第４章１節）。平成 29 年の保育所保育指針改訂において、第２章保育の内容に、「乳児保育に関するねらい及び内容」と「1 歳以上の 3 歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」が追加されたことにより、3 歳未満児の集団との関わりも、保育者との関わりと同様に子供の発達へと影響を与える重要なものであると認識されたことによるものであると考えられる。今回の幼稚園教育要領等の改訂が乳児期からの連続性を意識した改訂であるので、乳児期の記述の追加を行ったものであると考えられる。

３点目は、自立、協同性の記述の変化や地域とのかかわりについての追記である（第７章）。自立については、平成 29 年幼稚園教育要領の内容の取扱い（1）において、「諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって」という文言が追加されたことにより、領域「人間関係」における自立が「依存」に対する「自立」という意味だけでなく、やり抜く力へと変化していることを反映していると考えられる。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に、「(3) 協同性関わる中で、互いの思いや考えを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。」とされている。領域「人間関係」のねらいの（２）に掲げられている「工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさ」がこの協同性へとつながると考えられる。よって、協同性の記述が増加したのではないかと考えられる。小学生との関わり、地域との関わりについての記述は、小学校との接続を意識したものであると考えられる。

以上より、領域「人間関係」の「ねらい」及び「内容の取扱い」に関する部分だけでなく、第１章総則に関する内容が領域「人間関係」の教科書改訂に影響を与え、小学校との連携、地域との関わりに関する記述が増加している可能性があること明らかになった。また、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領でも、領域「人間関係」の内容が等しくなったことにより３歳未満児の記述が増加している可能性があることも明らかになった。

【研究2】幼稚園教育要領等の改訂前後に出版された複数の教科書の比較

目的：研究１では、幼稚園教育要領等の改訂前後に改訂が行われた同一の教科書を比較し、幼稚園教育要領等の改訂の影響を検討した。しかし、保育者養成校では様々な教科書が使われており、単一の教科書のみの比較では改訂による影響を明らかにすることができない。そこで、研究２では、平成 29 年３月の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領の改訂前に出版された領域「人間関係」の教科書３冊と、幼稚園教育要領等の改訂後に出版された領域「人間関係」の教科書の比較を行い、幼稚園教育要領等の改訂により、研究１で明らかになった３歳未満児、小学校との連携、地域との関わりに関する記述が幼稚園教育要領等の改訂後に増加しているかについて検討する。

方法：平成 29 年３月の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領の改訂前に出版された領域「人間関係」の教科書３冊と、幼稚園教育要領等の改訂後に出版された領域「人間関係」の教科書３冊の目次を比較し、その内容にどのような違いがあるかについて検討を行う。

分析対象は、以下の６冊である。

１．幼稚園教育要領等改訂前に出版された教科書

a.『新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る　保育内容　人間関係』小田豊・奥野正義編著　北大路書房　2009 年

b.『保育・教育ネオシリーズ [17] 保育内容・人間関係』岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修　金田利子・斎藤政子編著　同文書院　2009 年
c.『体験する・調べる・考える　領域　人間関係』田宮縁　萌文書林　2013 年
２．幼稚園教育要領等改訂後に出版された教科書
ｄ.『コンパス　保育内容　人間関係』岸井慶子・酒井真由子編著　建帛社　2018 年
e.『コンパクト版保育内容シリーズ②　人間関係』谷田貝公昭監修　高橋弥生・福田真奈編著　一藝社　2018 年
f.『[新版] 保育内容「人間関係」』神蔵幸子・桃枝智子編著　大学図書出版 2018 年
以下、教科書 a ～ f として記述を行う。

結果と考察：それぞれの教科書の目次を以下に示す。
１．幼稚園教育要領改訂前に出版された教科書

a.『新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る　保育内容　人間関係』（小田他・2009）
第 1 章　現代社会と子どもの「人間関係」
第 2 章　領域「人間関係」の考え方
第 3 章　「人間関係」の新しい展開
第 4 章　「人間関係」の発達とその問題
第 5 章　あそびのなかで育つ「人間関係」
第 6 章　保育者と子どもの「人間関係」
第 7 章　「人間関係」でちょっと気になる子ども
第 8 章　地域子育て支援にかかわる人間関係

b.『保育・教育ネオシリーズ[17]保育内容・人間関係』（岸井他・2009）
第 1 章　保育の基本と「人間関係」
第 2 章　乳幼児の発達と「人間関係」
第 3 章　保育のなかの「人間関係」
第 4 章　保育における領域「人間関係」
第 5 章　将来を見通した統合保育の充実を考える（障害のある子から「コミュニケーション」の本質を学んで―）
第 6 章　生涯発達における乳幼児期のかかわり（「かかわり体験の記憶から―）
第 7 章　人間関係発展の技法
第 8 章　要領・指針にみる領域「人間関係」の変遷
第 9 章　保育活動における共同の意味（レッジョ・エミリア実践の分析から―）
第 10 章　3 歳未満児保育における「人とかかわる力」
第 11 章　幼児保育における「かかわる力」
第 12 章　保育における集団と個の関係
第 13 章　親子関係を問い直す
第 14 章　幼稚園・保育所における大人の関係と子どもの育ち
第 15 章　地域における世代間交流と子どもの育ち

c.『体験する・調べる・考える　領域　人間関係』（田宮・2013）
Lesson1　自己理解と自己概念「自分を知る」ことからはじめよう
Lesson2　社会・文化に生きる子ども　生態学的環境として関係をとらえる
Lesson3 領域「人間関係」がめざすもの
Lesson4 領域「人間関係」の基礎知識
Lesson5　０・１・２歳児　乳児の保育所における人とのかかわり
Lesson6　３歳児　保育者が居場所　ものを「欲張る」ことにも意味がある
Lesson7　４歳児　自己主張と自己抑制　幼児期の「なかよし」とは
Lesson8　５歳児　園生活の充実感を支えるもの
Lesson9　かけがえのない一人一人の存在
Lesson10 保護者とのかかわり　保育者の専門性を活かす
Lesson11 保育者同士のかかわり　保育者の言動から子どもは学ぶ
Lesson12 かかわりの育ちを「みる」　自分の感覚を大切に
Lesson13 親しい人との体験が生きる原動力になる

２．幼稚園教育要領等改訂後に出版された教科書

d.『コンパス　保育内容　人間関係』（岸井等・2018）
第１章　人と人との関係
第２章　幼児教育の基本と領域「人間関係」
第３章　子どもを取り巻く人々と人間関係
第４章　乳児保育における人間関係
第５章　子どもの遊びと人間関係
第６章　子どものいざこざと人間関係
第７章　子どもの様々な感情と人間関係
第８章　他者への賞賛と人間関係
第９章　子どもの自我と人間関係
第１０章　個性的な子どもと人間関係
第１１章　領域「人間関係」からみた小学校との連携
第１２章　園で育む子どもの人間関係

e.『コンパクト版保育内容シリーズ②　人間関係』（谷田貝等・2018）
第１章　人との関わりの基礎　人間関係の発達課題
第２章　子ども理解の必要性
第３章　子どもを取り巻く環境の問題
第４章　遊びと人間関係
第５章　集団生活と人間関係
第６章　就学までに育てたい人間関係
第７章　領域「人間関係」のねらいと内容－０～２歳
第８章　領域「人間関係」のねらいと内容－３～６歳
第９章　０～２歳児の人間関係を育む保育実践
第 10 章　3～5 歳児の人間関係を育む保育実践
第 11 章　家庭との連携で育む人間関係

第 12 章　異年齢保育が育む人間関係
第 13 章　地域との連携で育む人間関係
第 14 章　特別な支援が必要な子どもの保育
第 15 章　領域「人間関係」の指導計画と評価

f.『[新版]保育内容「人間関係」』（神蔵等・2018）
第 1 章　幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「人間関係」
第 2 章　乳児期における人間関係　0 歳から 3 歳未満児
第 3 章　幼児期における人間関係
第 4 章　領域「人間関係」における保育者の役割
第 5 章　「人間関係」における今日的課題

両者の目次で使われている用語を比較検討した結果、以下の違いが明らかになった。

幼稚園教育要領等改訂前の教科書のみに 3 回以上出現した用語は、「かかわる」「かかわり」「発達」「育ち」「自己」であった。

一方、幼稚園教育要領等改訂後の教科書のみに 3 回以上出現した用語は、「育む」「連携」であった。

以下に、小学校との連携、地域との関わり、3 歳未満児に関する記述について検討を行う。

(1) 小学校との連携について

教科書ｄ、ｅの章名において、小学校との連携や就学に関する記述があった。教科書 a、b、c、f の章名と節名においては、小学校に関する記述がない。この結果は、研究 1 における結果と同様の結果であり、幼稚園教育要領等の領域「人間関係」の内容の変更によるものではないが、幼稚園教育要領等の総則において小学校との接続に関する記載が増加したことによるものであると考えられる。

(2) 地域との関わりについて

幼稚園教育要領等改訂前の教科書 a では地域子育て支援についての記載があり、教科書 b では地域における世代間交流についての記載があり、教科書 c では記載がない。一方、幼稚園教育要領改訂後の教科書 d では地域に関する章名はないが、節の中で地域の人々との連携を扱っている。教科書 e は、地域との連携を扱っているが、教科書 f では地域との連携についての記載はない。これらの結果から、地域との連携についての記載は教科書によって様々であり、幼稚園教育要領の改訂によるものではないと考えられる。

(3) 3 歳未満児の記述について

教科書ｂ、ｃ、ｄ、e、ｆの章名において、乳児に関する記述があった。章名に乳児に関する記述がない教科書 a も、節の中で乳児を扱っている。よって、3 歳未満児に関する記述が増加したという研究 1 の結果は、研究 1 で用いた『新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』に特有の結果であり、幼稚園教育要領等の改訂によるものではないと考えられる。

総合考察

これらの結果より、平成 29 年の幼稚園教育要領等改訂が領域「人間関係」の教科書に及ぼした影響は小学校との接続に関する記述の増加においてみられるが、それ以外ではあまり見られないということが明らかになった。よって、領域「人間関係」においては幼稚園教育要領の改訂前後

において学修内容があまり変化していないとも考えられる。

今後、さらに、他の教科書でも、改訂前後の教科書を比較し、同様の傾向が見られるかについて検討を行いたい。また、他領域の教科書も、同様の傾向が見られるのかについて検討を行うことを今後の課題としたい。

参考文献

芦田　宏（2009）領域「人間関係」の考え方　『新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る』小田豊・奥野正義編著　北大路書房 p.17-p.34
民秋　言（2009）要領・指針にみる領域「人間関係」の変遷　『保育・教育ネオシリーズ　保育内容・人間関係』岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行（監修）金田利子・齋藤政子（編著）同文書院 p.91-p.112
無藤隆・汐見稔幸（編）（2017）『イラストで読む！幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかり BOOK』学陽書房 p.8-p.9

分析対象とした教科書

無藤隆（監修）岩立京子（編者代表）（2008）『事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』萌文書
無藤隆（監修）岩立京子（編者代表）（2018）『新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』萌文書林
小田豊・奥野正義編著（2009）『新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る　保育内容　人間関係』北大路書房
岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修　金田利子・斎藤政子編著（2009）『保育・教育ネオシリーズ[17] 保育内容・人間関係』同文書院
田宮縁（2013）『体験する・調べる・考える　領域　人間関係』萌文書林
岸井慶子・酒井真由子編著（2018）『コンパス　保育内容　人間関係』建帛社
谷田貝公昭監修　高橋弥生・福田真奈編著（2018）『コンパクト版保育内容シリーズ②　人間関係』一藝社
神蔵幸子・桃枝智子編著（2018）『[新版] 保育内容「人間関係」』大学図書出版